

緩和ケアにアートを

三菱京都病院 院内に絵画30点設置



アート作品が設置された三菱京都病院緩和ケア病棟の談話室。雰囲気明るくなったという「京都市西京区」で

三菱京都病院（京都市西京区）が今月、無機質になりがちな院内に絵画などを置く「ホスピタルアート」を取り入れた。緩和ケア病棟を中心に、部屋や廊下、談話室などに約30点の絵画を設置。病院によると、府内で緩和ケア病棟にホスピタルアートを導入するのは初めてという。

三菱京都病院では2015年12月に緩和ケア病棟を開設。医療だけではない視点から患者や家族をサポートしよう、浄土真宗本願寺派が運営する緩和ケア施設から「ビハラー僧」と呼ばれる常駐僧侶を週に一度派遣してもらうなどの取り組みが続いている。今回は京都市立芸術大の楠田雅史、滝口洋子、辰巳明久の各教授がコーディネートを担当し、市立芸大出身で主に抽象画を手がける画家、大森翠さんと渡辺智子さんの作品を選んだ。

山田利恵・看護部長（53）は「外出していた患者さんが部屋の絵を見て『良いお部屋に変えてもらったみたい』と喜んでいた」と手応えを感じている。吉岡亮・腫瘍内科・緩和ケア内科部長（47）は「病院から出ることが難しい患者さんでも、美しいものを目にする事ができる空間は大切。より『日常』に近い環境を整えたい」と話した。【花澤茂人】

毎日新聞京都版 2017年5月15日付朝刊より

ホスピタルアート (活動紹介)

写真背景の2枚の大小の絵は大森さんの作品です。
緑地公園駅近くの千里山病院にも作品が飾られています。

29回生 大森 翠